

『これで日本の将来の知性は育つのか？  
高校英語教育と受験英語を考える教師・保護者の研究会』

「英語で知性とコミュニケーション力を高め、世界の人々と、交流し議論できる力を身につけたい」これが多くの高校生の切なる願いです。にもかかわらず、今日なお大半の進学高校の英語では、文法訳読式の授業とドリルの補習授業が行われています。そこでは教師が日本語で授業を行い、教科書を逐一和訳して、そこに含まれる文法事項を解説し、受験対策用の4択ドリルの答え合わせをすることに終始しています。授業中に英語で考え・話し合い・発表する機会はほとんどありません。それはなぜでしょうか？

「それは、大学入試問題が昔と同様に、文法訳読式中心だからだ」「だから生徒を希望する大学に合格させるために、文法訳読式の授業が一番良いのだ」と答える人がいます。果たして、現代の大学入試問題は、本当に文法訳読式中心でしょうか？私たち研究グループ（有志の大学教員7名・高校教員7名・学生2名）はそれを実際に克明に調査しました。その結果、大学入試がもはや文法訳読式中心とはいえないことを突き止めました。むしろ今日の大学入試問題は、英語を大量に聞き・読んで概要を掴み、英語で議論し、英語で課題を解き、英語で自分の意見を表明する力を試す傾向が強まっているのです。

ですから、「英語で世界の人々と交流し議論できる力を身につけたい」という高校生の希望に応えつつ、入試にも対応することは可能になってきたのです。いやむしろ、高校はそういう英語授業をしっかりと実現すべき時が来ているのです。今回の研究会では、私たちの入試問題分析の結果を報告し、また実際に知性とコミュニケーション力養成の英語授業を実践している高校の例を紹介し、参加者の皆さんと一緒に、より望ましい高校英語授業について考えたいと思います。（主催者一同）

日時：12月5日（日）10時～15時

会場：名城大学名駅サテライト内、多目的教室

（名古屋駅ユニモール地下街④番出口を出てすぐ、名古屋駅前S I Aビル13階、

Tel:052-551-1666、<http://www.meijo-u.ac.jp/campus/shisetsu/sate.html>）

主催：生き方が見えてくる高校英語授業改革プロジェクト（代表者：静岡大学教育学部教授・三浦 孝）

内容：

10:00 ～ 受付

10:30 ～ 12:00

講演「現代の大学入試英語問題は、本当はどのような力を試そうとしているか？

— 33有名国立・私立大学の入試問題分析の結果から」

講師：三浦 孝（静岡大学）・関 静乃（静岡大学）・亘理 陽一（静岡理科大学）

13:00 ～15:00

パネルディスカッション：

テーマ「本来の英語教育と受験英語との兼ね合い—現場教師の声と実践」

パネリスト：茶本 卓子（神戸市立葺合高校教諭）・伊藤 高司（名城大学附属高校教諭）・

柳田 綾（県立高校教諭）

参加資格：どなたでも参加できますが、できるだけ事前に参加申込してください。

参加費：500円（資料代等）

問い合わせ先（および参加申込み先）：加藤和美(kazumi.eigo@gmail.com)

関連文献：プロジェクトホームページ：<http://www.ecrproject.com/>

大修館『英語教育』2010年8月号 「大学入試英語に関する2つの主張を検証する」